



学校再開にあたって

校長 荻間 秀浩

3月2日から約3か月もの長い間、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、臨時休業となっていました。過去に例を見ない未知のウィルスと闘いながらの臨時休業でした。この間、各ご家庭におかれましても心配と多くの御苦勞をされていたことと存じます。学校としても再開後の教育活動にできる限り支障が出ないように、子供たちの学習課題の準備や課題のチェック、再開後の学級経営や学習指導・生活指導に有効な手立てを話し合うオンライン研修会の実施、各教科の教材研究や教材の準備、再開に向けてのガイドライン作成、再開後の施設や消毒器具の準備等、再開後の学校生活がスムーズに送れるよう教職員が一丸となって準備を進めてきました。今回の臨時休業で、当たり前の日常が当たり前でなくなり、普通に生活することがどんなにありがたい事なのかを改めて感じたところです。

本日より学校の教育活動を再開いたします。とは言ってもしばらくの間、今まで通りの登校というわけには、まいません。先週、ホームページにも掲載したように徐々に徐々に段階を踏んでの学校再開となります。長い間の臨時休業で、子供たちの生活リズムも今まで通りとはいかないかもしれません。まずは、生活リズムをきちんとするところから始めていきます。各ご家庭におかれましても、分散登校の間も朝しっかりと起き、朝ご飯を摂り、登校時間に間に合うよう送り出していただけますようお願い申し上げます。

また、当面の間は、感染防止の観点から毎日の健康観察カードによる健康チェック、教室の換気をし、各児童機の間隔を空けての授業を行ないます。休み時間にもソーシャルディスタンスを守っての過ごし方を指導していきます。休み時間や給食前の手洗い・うがいも徹底させていきます。10日（水）から始まる給食は、グループにせず前を向いての食事にします。児童下校後は、各教室のドアノブや電灯のスイッチ、階段手すりやトイレのドアノブ等、多くの人に触れる場所の消毒も行っており、感染防止に努めてまいります。詳しくは、裏面の取組をご覧ください。各ご家庭におかれましても、児童が帰宅しましたら、手洗い、うがいをしっかりと行うようお声かけください。また、学校で先生やお友達とどのように過ごしたのか、ぜひお子様の話を聞いてあげてください。分散登校で、今まで通り十分な時間を学校で過ごすことはしばらくの間はできません。短い時間ですが、久しぶりにお友達と過ごす時間は、子供たちに元気と明るさを与えることと思います。さらにそれが、各家庭や地域の活力になればと考えます。

この3か月の臨時休業の為、学校行事の大幅な見直し、変更をしなければならなくなりました。

今現在、決定しているところでは、

- ・3、4年生の遠足の中止
- ・5、6年生の移動教室の中止
- ・水泳指導の中止
- ・夏のわくわくスクールの中止
- ・夏季休業期間の短縮（8月8日（土）～8月23日（日））
- ・音楽鑑賞教室（5年）・劇団四季「こころの劇場」（6年）の中止

が挙げられます。今後、これ以外にも各行事の内容変更や中止も検討していかなければなりません。子供たちの楽しみにしている行事を変更、中止にしてしまうのは、断腸の思いでもありました。しかしながら、新型コロナウイルス感染症防止という観点から子供たちの命・安全を守るための決断でもあります。子供たちが新しい日常生活の中で、人と接する楽しさや心地よさを改めて感じ、学習や学校生活において達成感をもてますよう、学校としても教職員一丸となって努力してまいります。一日も早く通常の学校生活に戻れることを祈りながら、健康・安全・人権に気をつけ、教育活動を展開してまいります。各ご家庭・地域の皆様のご理解、ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

子供たちが正しい知識をもとにして、自分や周囲の人々を大切に

学校の臨時休業が明け、段階的に子供たちが登校できるようになりました。引き続き感染症拡大防止の取り組みが必要ですが、状況が少しずつ良くなって来ていることも感じます。松仙小学校では、子供たちが健康で安全な生活を送り、感染症予防の正しい知識や適切な行動を学ぶことができるよう、発達段階をふまえて、下記内容について全学級で指導を実施しています。

- (1) 一人一人が感染症を予防する
 - ・手洗い、咳エチケットの習慣化
 - ・健康観察の日常化
 - ・3つの「密」をつくらない
- (2) 正しい知識を知る
 - ・感染してなければ大丈夫？
 - ・心や身体が不調なときはどうする？
- (3) 感染症に関連する差別や偏見を許さない
 - ・感染症に関する差別や偏見が生まれる仕組みを知り、自分の行動を考える



【 ほけんコーナー 】

日本赤十字社『3つの感染症はどうつながっているの?』を参考に、子供たちが理解しやすいよう、保健室前に掲示しています。

感染症対策の方法だけではなく、人の気持ちがどのように変化していくのかを知ることによって、子供たちが自分の言動を考えたり振り返ったりする機会を大切にしていきます。

新型コロナウイルス感染症のどんどころに、私たちは恐怖や不安を感じているのでしょうか。感染症の怖いところは、その感染力だけではありません。感染症による病気が不安を呼び、不安が差別や偏見を助長することで、差別がさらなる病気の拡散につながっていくことも心配されています。これは大人も子供も同じで、未知のものから自分を守ろうとする本能によって差別や偏見が生まれてしまい、その差別や偏見が怖いために身体の不調を隠し病気が広がっていきます。

「〇〇さんは学校を休んでいるよ。どうしたのかな。」

「感染症はもう大丈夫って人がいるけど、本当にそうなのかな。」

「友達から、私の家に行くから遊ぼうって誘われたけど、どうすればいいんだろう。」

子供たちの率直な疑問に対して、大人が一つの正解を伝えようと無理をするよりも、一緒に考えることが大切ではないでしょうか。ご家庭で、新型コロナウイルス感染症対策となる適切な行動や、望ましくない行動、周囲の様々な状況に対する考え方等について、お子様と話し合う機会をもっていただければと思います。学校でも、子供たちが自ら適切な行動を積み重ねていくことができるように、引き続き指導を行っていきます。